

バチカン。「テロの脅威は存在するが、具体的な計画は知らない」

2015年3月1日 (Zenit.org)。バチカンの警察署長ドメニコ・ジアーニ氏は、イタリアの警察の機関誌

『近代警察』において、教皇フランシスコは現代の世界の中で最も影響力を持った人のひとりであるが、同時にテロの標的に最もなりやすい人物のひとりでもあると言う。

過激派組織イスラム国がイタリアとバチカンに送った脅迫について尋ねられ、所長は「脅迫はある」と認めた。そしてこのことは「私とイタリア警察ならびに他国の警察との話しから」出て来たと説明した。他方、「脅迫があるというのと、攻撃を計画しているというのは別のことです。今の段階ではバチカンや教皇様への攻撃計画が立てられたという情報はないと断言できる」

このインタビューの中で、3人の教皇に仕えたこの警察署長は、最も危険だったときの一つは「2006年9月12日にベネディクト16世がレーゲンスブルクでした講演の直後の期間であった。その講演は、今日読み返すと予言的であったことがわかる。なぜなら一定のイスラム過激派の墮落を非難していたからであるが、当時は教皇陛下に対する極めて強い抗議が起き上がった」。

この他にジアーニは、バチカンとイスラム諸国の間により協力関係があると請け合う。そこから「貴重な情報が届き、また教皇陛下に対する評価と感嘆の念も届けられる。今日においては、教皇はイスラム教徒から世界で最も影響力のある権威として見られ尊敬されていると言うことができる」と。

警察の警戒状態については、「警戒態勢のレベルはずっと高いままです。ISの脅威だけでなく、個人的なテロの可能性があり、この方が予測も難しくもっと危険です。狂信者や精神疾患患者、あるいはバチカンで騒動を起こすことでマスコミの注意を引こうとする輩などのことです」とはっきりさせる。

この状況で教皇がどのように生活しているかについては、ジアーニは明快だ。「教皇陛下はできるだけ多くの人と直接に接することを控えることは考えておられません。教皇様はひとりの司祭としてその羊の群れとの接触を失いたくないと思っておられます」と。教皇の警護に当たる者は、「教皇の望みに答えるべきで逆ではない。教皇様が望み選ばれる仕方です引き続きそのお仕事をなし遂げられるように、全力を尽くさねばならない」と寸分の迷いもない。

現教皇が住まわれるドムス・サンタ・マリアについて、危険度が高いと認める。なぜならバチカン宮殿ならより近づきにくいからである。しかし、これも教皇が選ばれたことに属するので、危険性の高さという理由でこれを変えようとは思っていない。

ジアーニによれば名誉教皇ベネディクト16世の警護の方がより容易である。というのは、バチカン市国の奥まった場所にある修道院に住み、毎日せいぜい警護の人に付き添われ庭を散歩するくらいだから。

またバチカン警察とイタリア警察の間にとっても友好的な関係があることも大いに貢献していると考えている。

